

令和6年度 第2回 男女共同参画及び多様な性の尊重に関する審議会 議事録

- 1 日 時 令和6年10月21日（金）午後2時00分～午後4時00分
- 2 場 所 横須賀市役所 消防局庁舎4階 災害対策本部室
- 3 出席者
 - [委 員] 10人
志村委員長、飯田委員、石藏委員、今村委員、岡崎委員、川村委員
工藤委員、櫻井委員、三田委員、横山委員
 - [事務局] 5人
市長室 井上室長
市長室人権・ダイバーシティ推進課 杉山課長、千葉課長補佐、川井主任、川上
 - [傍 聴] 8人
- 4 審議事項 男女共同参画及び多様な性を尊重する社会実現のための条例改正について
- 5 報告事項 第6次横須賀市男女共同参画プランの令和5年度取組実績報告

6 議 事

開 会	
事務局	開会
市長室長	挨拶
・ 審議会成立の報告	
・ 本日の資料の確認	
審議事項	
事務局	～資料1説明～
委員長	資料1-1の1～3は第1回審議会で見聞交換を行い、ご意見を反映した形となっている。4、5については今回が初めてなので、まずは1～3についてご質問ご意見をいただき、後半に4、5について改めてご意見をいただく形にしようと思う。 丁寧に説明いただいたが、市民感覚で難しくないか、条例として出すうえで専門的見地からあるいは市民的な感覚からチェックいただけるとよいと思う。

委員	資料１－２のベン図は審議の中で分かりやすくするために作っていただいたという認識でよろしいか。
事務局	その通り。
委員長	個人的には見てわかりやすいと思ったが、この図は原典があるのか、それとも事務局で作ったものか。
事務局	説明用に事務局で作成した。
委員長	一般的に見ると言葉のそれぞれの部分がこういうところに属していくんだというところで、非常に見やすいと思ったが、有識者の委員お二人に見ていただき、正しいか議論していただきたいが、一般市民的な感覚で私が見るとこれで説明いただきたいと思う。一方で、ベン図があるから感覚的に解釈しやすいんですが、条例の中にコンテンツを置くというのはなかなか聞かないが、実際市民に示したときに、こういう専門の用語を解説していくような、あるいは定義みたいなところを載せていくような、そのような工夫などされる予定はあるか。
事務局	ベン図を条例に載せることはないが、お手元にある条例のパンフレットは前回条例改定の翌年度、市民の方々への説明用のものとなっている。前回全面改正だったので大きめのパンフレットになっているが、今年度無事改正された際には、来年度以降、パンフレットや、NEW WAVE に載せるなど市民への周知啓発を行いたいと思っている。お手元にあるパンフレットにも性自認など図が示されているので、似たような形で皆さんに周知することは可能なのだが、今回の資料のベン図は改正には直接かかわる内容ではないが、皆さんに分かりやすくなるようこういったものを載せたいと思う。
委員長	わかりやすいベン図を載せていただいたほうが市民理解がはるかに進むと思う。ぜひ検討していただきたい。
委員	先ほどの性別等の文章が、ベン図にしたことによって、よりはっきりとわかった。
委員	気になる部分は具体的にどのあたりかお話しいただきたい。
委員	性自認はベン図で性別に含まれないというのが、私の持っていた認識と違っていたので気になった。「性別」と言われた時に、今どちらかという性自認を中心に考えてという方向に動いている中で、性別、性的指向、性自認となっていて気になった。
委員	こちらのベン図でそれぞれの言葉の関係性をわかりやすく作っていただいているのは良いと思う。 今委員からも疑問があるのご指摘があったが、専門的にもこうした図というのを作って示すというのはあまり一般的ではないが、例えばこちらで使われている、性別と性自認の関係のご指摘があったが、例えば性自認を括弧をつけて心の性と表現したり、こうした一般社会でそのような用語として通称使用されている表現と、学術的には一般的に心の性と使わないので、そういったところも含めたところが引っ掛かりを覚えるところではないかと私は感じた。仮にもし今後そのようなところも考えていくとすると、図解にするというのはすっきりとはいかないのではないかなと思う。試みとしては非常に良いと思う。

委員長	表現の仕方が事務局としてもしっかり勉強しているが、その中で解釈されているので、もしかしたら、有識者の委員の助けを借りながらさらにベターな表現を検討してみたらよいのか、それでも難しいのか専門的にはどうか。
委員	必要であれば作ってもよいと思うが、必要性がどうかというところ。
委員	ここにフォーカスすると、ベン図がない状態で条文になると思うが、ここで括弧をとれば性別等とは性別、性的指向、性自認等となっている。この三つは独立して並んでいるとすると、性自認は性別とは違うものという認識になるのでよいのか。 ベン図では性自認は性別等の中に入っており、私は大事なものだから特出しされているように感じられるので、まだよいと思ったが文章だけになったとき引っかかるように感じる。
委員長	むしろ文章側に問題があるのか、文章側の表現でもう少し工夫したほうが良いということか。
委員	難しいのは、あまり性別という日本語での表記は一般的にはせず、英語圏の言葉の用法の意味をそのまま尊重するということで、横文字で使うというのが一般的で、その中のジェンダーという用法の中に一つ性別という意味でジェンダーという用語を用いる。これまで性別と言ったら SEX を用いる、パスポートなどは SEX になっている、それをジェンダーという意味で性別という用い方があったり。ほかにも性役割や性差などそういうものを包括的にジェンダーという用語で使っている。一つの日本語で対応する言葉としては表現しにくい。日本語をベースに構築しようとする、少しやりにくいと思う。
委員長	ニュアンスとしてもいろいろ解釈があり、誤って伝わるほうが危ないので、扱いについては今後も慎重にすべきだし、専門の皆さんの間でも意見交換したほうが良い、市民の皆さんにわかりやすいという形で意味がありそうなので、こういったものを生かしながら、しかしより正確な感覚を盛り込んでいければよいので、ぜひ検討していただきたい。
委員	こちらに書いてある定義について、(2) 性別等性別（身体の性的特徴及び当該特徴をもとに出生時に戸籍の届出により～というくだりがあり、形成された性別（以下「ジェンダー」をいう））とあるので、おそらくベン図と食い違いがあり委員は気になったのではないか。
委員長	確かにベン図から外れていたり入っていたりする部分があるので、この辺は言葉の解釈と難しいところなのかなというところもありますが、条文とつじつまが合っていないといけないので表現上は少し確認する必要があるのではないかと思います。
事務局	（性別等について改めて説明） まず条文の性別、（身体の性的特徴及び当該特徴をもとに、出生時に戸籍の届出により指定された性別）が、このベン図では身体の性になる。身体の性並びに、次からがジェンダーの説明になり、男女の役割を固定的に捉える社会的または文化的に形成された性別、これがジェンダーになる。この性別の中の括弧は身体の性とジェンダーを示している。括弧が終わり、性的指向、性自認等を言う。括弧が長く、括弧の中に括弧があり、私もこの情報はわかりにくいと思ったのでこの表にしてみた。この身体の性の部分は長い文章になっているので、途中で並びにという言葉が出てくるので、余計に混乱させてしまうかもしれないが、括弧身体の性とジェンダーということになる。

委員長	(2)は性別等とは何かを説明しようとしていて、それは性別と性的指向と性自認と三つあり括弧が長くて、疑問に思ったが性別等を説明しようとしたときはベン図の通り。図と文章で表すことの難しさがあるということ、わかりました。今の事務局の説明通り、性別等の説明としてはあっていると思う。 それくらいの難しい部分を条例の中で説明していく難しさがあるので、何か良い表現の方法があれば、ぜひ委員の皆さんのご意見をいただきたい。 今までの第1回目の審議会を踏まえて、大変丁寧に事務局が作ってくださっているので、混乱はないと思うので、1から3までのご説明いただいた部分は、とりあえず大丈夫かと思う。
委員	デュオよこすかのところで、これは他と足並みを揃える条文整備のためとあるが、例えば今のように名称があり、括弧をつけてデュオよこすかと追記したらそれはなくなるか。
事務局	例えばですが、この近くの施設で「ヴェルクよこすか」という施設がある。こちらは条例上の正式名称が「横須賀市立労働福祉会館」となっている、愛称としてはヴェルクよこすかですが、ヴェルクよこすかという名称は条例では出ていない。また逸見にある「すこやかん」も条例の名称として横須賀市健康増進センターと規定されていて、愛称がすこやかんとなる。まなびかんは生涯学習センター条例では横須賀市生涯学習センターと規定されている。他の施設の条例を事務局で調べたところそのようになっている。括弧をつけるというよりは、条例上の名称として規定することになる。
委員長	委員のご意見は、せっかく通称、愛称があるのにとのお話ですね。 私も専門的に言えば、行政的には説明できる硬い文章がいいと思うのですが、市民にはデュオよこすかが親しまれているとすると、別に愛称を併記してもいいのではないかという気は致しますが、行政として市民に親しまれる施設として、この愛称があるという条例の中の文章の一部に併記するのはイレギュラーなのか。この辺は役所の考え方のような気もしますが、条例は堅いのだからそれでいいという考え方もあると思うのでその辺は横須賀市の考え方として。例えばほかにヴェルクとかみんな書いたほうがいいような気もしなくはないのですが、条例は役所の形式的なもので堅い文書で行くというのも貫くならそれでもいいが、条例も市民に読んでもらって、市はパンフレット作っているわけだし、そうなったときここにはデュオよこすかと書いてあったほうが良い気がするが、いかがか。
委員	第16条からデュオよこすかという名称が消えるのなら関連が分からなくなってしまうので、工夫が必要だと思う。
委員長	ここのデュオよこすかも横須賀市男女共同参画及びという文言を併記しないと読みにくくなるという声もあるが事務局いかがか。
事務局	全庁的な考えを聞いたわけではないが、改正案で示している通りのような書き方に統一されているので、それに倣って今回の改正案と考えている。しかしせっかくの愛称なので、委員からもあったように、リーフレットなどでは今回条例改正を周知するとき、あくまで愛称のデュオよこすかをしっかり皆さんに周知していけるような形にしたいと考えている。
委員長	それではご意見等無いようでしたら、条例改正案に関しては、今委員の皆さんにいただい

	たご意見のように併記して示していくベン図や言葉の定義、このあたりの表現をどのようにしていくか、もしリーフレットなどに提示する際にベン図の形どうあるべきかなど専門委員の皆さんにご相談いただきながら、少し改良検討していただきながらということになります、意見がなかったところに関しては現状のままでよいということでこのまま進めていただきたいと思います。 それでは続いて報告事項3に移る。
事務局	～報告事項3説明～
委員	あくまで成果目標ではなく、事業が実施できたかどうかの評価でよいか。
事務局	おっしゃるとおり。事業を実施したかどうか、予定した通りの実施だったか、予定してたができなかった、全くできなかったという評価になっている。
委員長	事業実施の実績ということか。
委員	委員のご指摘と同じところで気になった。資料2、5ページの評価方法のところでは、事業ごとの達成度（効果度）とあり、これが実施状況の報告なのか、効果も含めたものなのか。
事務局	基本的には事業の達成度が書かれている、効果が測れるものについては、効果も含めて評価している。
委員長	15ページの21だが評価の理由の中に参加者のアンケートで満足度が5人ということで、こういったものは効果も示されていると思う。しかし皆さんもご存じだろうが効果を測るということは、効果測定はすごく難しいので、全部を確実にとなっていないので（効果度）となっているのかと思う。
事務局	効果というのは難しいと思う。まだ予算の段階だが来年アンケートを取り全体としてどうか、たくさん項目はできないが、市民がどう思っているか考えたとき、それができなかったら市はやり方を考えなくてはいけないし、今回は5年度の定量的なジャッジできるところは行ったが、定性的な部分は来年行ってまたそれを皆さんにお示ししたいと思う。
委員	経年変化とか見ていくものや課題があるのですが、例えば1番の市の実施事業における配慮という部分で事業実績としてはセルフチェック方式の職場研修を2回実施したとなっていてB評価で評価の説明・理由ではジェンダー平等の意識啓発を概ね予定通り実施し、再確認してもらうことができた。とあるがセルフチェック式の職場研修であれば数値が出ていると思うので、「ジェンダー平等の意識啓発を概ね予定通り実施し、再確認してもらうことができた」のがどれくらいの数かおそらくわかると思う。例えば100名受けた中の50名であれば、前年度と比較して増減が分かるので、それに対して次年度の課題として数値目標をもってどれくらいまで上げていく。そのために職場の研修としてさらにこういったことを行っていくと形になってくれば流れがすごくよくなっていくのではないかと思う。2番の市職員に対する研修等の実施に関しても、多様な性に関する研修を行って、新採研修は全員参加し、効果測定でも知識の定着は確認できたとあるので、数値も多分うまく出ると思う。そういったしっかりとらえられるものに関しては、この中に入れ

	ておいたほうがよりよくなり次年度の対応でも流れがよくなるのではないかな。
事務局	今ご提案いただいた件については、次年度以降の評価と記載についてはそのようにしていきたい。
委員長	特に市長室で行っているところならともかく、担当部局がほかのところではお願いしてみたいなところもあると思うが、審議会からそういった声が出ているので、結果もぜひお知らせくださいと強く推していただいていいかと思う。市民にとっても事業をしっかりと進めていて効果がしっかり出ていることを見せていくのは非常に大事で、責任としてもあるのかと思うので、全市的にそのような傾向が広まっていくのはとても良いことだと思う。期待をしたい。
委員	18 番デュオよこすかの運営について、もともとデュオよこすかまつりの開催という形で周知を進めていると思うのだが、私自身もこのまつりに参加させていただき、デュオよこすかとお祭りの結びつきが感じられなかった。その場所自体、この審議会に入ってくるのをきっかけに知ったというのがある。そのような意味でデュオよこすかの周知というのは、お祭りはかなり親子や子育て世代の方々が多かった印象を受けるのだが、そうではなく中高生や実際にこのジェンダーについての問題をかかえている人達にどれだけ周知できるのかというのが重要ではないかと思う。そのようなところを目標値と踏まえて評価されたらよりよいのではないかと思う。
事務局	デュオよこすかまつりについてですが、総合福祉会館で行われているふれあいフェスティバルという中の一つとして出店しております。全体的には福祉関係の出店者が多い中デュオとしてどのようなPRをして皆さんに5階にあるデュオよこすかに足を運んでいただくかが第一の課題になっています。男女共同参画やジェンダー平等多様な性というアプローチだとなかなか難しい部分もあるので、ここ数年は鎌倉の美容学校の専門学生の皆さんと一緒にハンドマッサージなどを行いお客様に来ていただき、そこでジェンダー平等や多様な性の情報も一緒にPRするという方法をとっています。令和6年度初めて多様な性のトークコーナーというものを設け、このハンドマッサージに来たお客さんにお声がけし多様な性に関してお喋りをして聞きませんかというコーナーを設けました。私たちがどのような反応があるのか、 っ どういった展開になるのか、試行錯誤の中始めたのですが、非常に皆さん話が盛り上がり、長くお話しされたり、若い方も友達同士で少し盛り上がりたりと見受けられて、非常に手ごたえを感じております。ですのでデュオらしいトークコーナーや取り組みをもっとPRしながら、来年度に向けて多くの方に来ていただけるようなやり方というのを考えていきたいと思う。
委員	そもそもデュオがどういったところかたどり着かない層が多いと考えているので、デュオに来れる人はよいが、デュオに来れない人をどう掬い上げるか考えられたら良いと思う。
委員長	デュオの抱える、総合福祉会館の5階にあるという、たどり着くのも大変という人もいる中で、一般の人にアピールするにはなかなか巧妙な場所にあるが、関心を持ってきてくださる方のためにイベントを行っているのはよいと思う。 関連で、今多様な性のトークコーナーというのは今年度だから令和6年度の話で、表は去年のものです去年デュオまつりが行われて、そういった多様な性に関するものを行ったほうが良いという認識でよいかな。

事務局	その通り。
委員長	5年度の今後の対応のところに、引き続きと書かずにさらに多様性を目指して、今年行ったことを書き、多様な性にかかわるコーナーを作るという新しいアイデアで行うところを書いていただきたい。こういったところが惜しい、しっかり考えて行っているところが、今後の対応のところで少ししか触れられず、それを受けて今年の評価がしっかり書かれ、皆さんが来てくださった、そこでA評価になる。そういった話になると私は全般的にせっかく行っているところが、効果が出ているものもあるような気がするので、Bが多いが本当はAになるものもあるのではないかと考えられるので、もう少し丁寧に良い評価を出していただければと感じた。 事業実績のところで来館者数 210 人とありますが、デュオよこすかまつりでの来館者数が 210 人ですよ、上に総合福祉会館で行われたフェスティバルの一環でと書かれていると、総合福祉会館の来館者にも見えてしまうので、来場者にしてデュオよこすかまつりに来た人が 210 人と見えるようにしたほうが良いのではないかと、こういったところも誤解を得てもったいないということが起こりうるので気を付けていただきたい。
委員	私も6月の時民生委員としてふれあいフェスティバルに参加させていただいて、デュオよこすかまつりに伺ったのですが、ジェンダーということで5～6人交えてお話しさせていただきましたが、参加された方はとても初めての知らない世界ではないのですが、初めて多様な性の当事者の気持ちがわかってよかったと伺いました。前回も同じ話をさせていただいたかと思いますが、そういった機会があると皆さんとても関心があると感じさせていただいて、私としては民生委員さんたちが、最近ジェンダーという言葉をよく聞くのですが、冊子等いただいてもなかなか、意識等言葉だけでいろいろなところでセミナー等はあるが皆さん出向いてまでとはいかないので、私が考えるのは、小さい単位でも私は地区の民生委員の会長をしておりますが、来年の6月に年に1度の民生委員の研修会を行うのですが、どのような手続きをしたらジェンダーについてお話していただけるか、やはり皆さんに周知していただくには民生委員もわかっていただければ、よく周知していただけたらと思う。とても素晴らしいことをしているので一人でも多くお話を聞いていただき共通意識を持たせていただきたいと考えた。一人でも多くの方に知識を得る場を設けて勉強させていただきたいと思う。
事務局	今年度デュオまつりに参加いただきありがとうございました。民生委員、児童委員の皆さんは福祉の最前線なので、市民の方たちを支えていただいております、ぜひ研修会に伺わせていただいてジェンダーや多様な性について関心を持っていただけるよう参加させていただきたい。
委員長	このトークコーナーに来た方にアンケートなどは取ったか。
事務局	アンケートを取った。
委員長	そのアンケートで参加した満足度が見えるようなものはあったか。
事務局	おおむね満足という回答が得られた。
委員長	それはぜひ6年度の評価基準にしていいただきたい。よいという話があれば評価はAだし、次年度も続けていく流れになると思う。結構埋もれている効果などいい評価を丁寧に起こしていくとよいと思う。ぜひその点を大事に扱っていただきたい。

委員	56 番プレママ・プレパパ教室の開催について、評価令和 5 年度 KPI 母の EPDS（エジンバラ産後うつ病質問票）が 9 点以上の割合 5.3%、実績が 5.1%で A の評価になっているが、5.1%に該当する人に対してフォローや相談など紹介されたりしているのか。また 64 番障害者への相談支援の評価で KPI を達成しとあるが、この達成というのがどういった基準なのか、教えていただきたい。
事務局	これは対象の母親に質問票をチェックしていただき、9 点以上の割合が 5.3%で実績が 5.1%なので、この 9 点以上になるのがストレスが多い状態になる、結果として対象の母親にとって良くない結果となる。9 点以上の割合が 5.3 より少なかったなのでこの事業の評価は A になっている。質問票に後に、どのようなケアがされているかについては、課題の項目下の部分、夫婦の協力体制や産後のサポート体制を考えるために生活のスケジュール表を作成するが対応かと思うが、あらためて確認し後日回答したいと思う。続いて 64 番についてこちらの KPI は福祉子ども部のもので、事業実績に書かれている、地域ごとにセンターを設置する、その設置目標が 5 か所なので実際に 5 か所設置されているので達成となる。
委員	KPI とはなんという言葉の略か。
事務局	KPI は重要業績評価指標、key performance indicators の略語になる。
委員長	英文字やカナの言葉で難しいものが増えているが、記載するとき事務局も市民に分かりやすくしていただけるとありがたい。
委員	資料を読みながら言葉の文言を調べながら読んでいったが、53 番プレコンセプションケア、この言葉が初めてだったので、プレパパプレママなど子育てに関するものはいろいろ行ってきたが、試しに 30 代の娘にこの言葉を知っているか聞いてみたが知らないと返ってきた。すごく良い考えだと思います、おなかの中に新しい命を授かるまでの準備とかそういうことだと思うので、こういったものを広げられる市民の方に理解を深められるとよいと思いながら読みました。
委員長	市民感覚の大変大事なご指摘だと思う。先ほどの KPI もそうですが言葉が出てきて残っているの、市民向けで言えば初心者向けに解説があるとやさしいと思うがいかがか。
事務局	おっしゃる通り、少し用語の解説については不足している部分があると思うので、今後資料を作る際、できる限り用語の解説をわかりやすくしていきたいと思う。 プレコンセプションケアについて会場にいらっしゃった方にもわからない方がいるかと思しますので、紹介させていただきます。第 6 次プランの冊子、41 ページにコラム 17 プレコンセプションケアについて記載させていただいています、プレは前の、コンセプションは妊娠受胎で、プレコンセプションケアはその二つを合わせて妊娠前からの健康管理という意味で、女性やカップルを対象としております。ケアはいつか妊娠したいと考えている女性だけでなく思春期以降、妊娠可能な全女性とカップルに必要なものです。今回審議会資料には詳しい内容を記載できなかったの、分量もありますが可能な範囲で分かりやすくするよう努めたいと思う。
委員長	プレコンセプションケア、見ると健康でいるための生活習慣、禁煙、飲酒は適量、ストレスはためない、普通に日常行うべきことのように見受けられますが、特にそれを妊娠・出産というところを目指してか、その前の心がけとして考えていくという思想です。普通に

	大事なことです。その言葉がすごく難しい言葉になりつつあるというのもポイントだと思いますが、それをしっかり普及し市民にもわかりやすい言葉にしたり、補助することも行政の大事な役割なので、この辺りを留意しながら資料を作っていただきたい。
委員	全体を見ていてですが、性の多様性やそういった観点からすると、もっと細かないろいろなことがなされているのではないかと、なされているとよいと思った。例えば39番男性向けのジェンダー平等をテーマとした講座の開催で、事業実績に性別を問わず参加可能な講座を多数実施したとあり、評価の説明理由にも年齢、性別問わず参加できる口座を多数実施してきたとある。これがたまたまなのか、性の多様性を踏まえてあえて目標に掲げて行ったのか、男女平等の観点なのか、この審議会にかかわる部分で何か工夫があったのかなかったのか、そういったところがわかるとよい。ほかにも「アンケートの取り方で今年度から性別を聞くような記載をやめました」や、例えば男、女と選択していたものにその他、答えない、などを入れたなどそういった細かいところがわかると個人的に良いと思う。
委員長	事業実績や評価の説明、理由になっているが、事業実績の中に行った工夫や心掛けたことなどきっかけのようなことを書けるとよいと思う。難しいところもあるが行ったことによってはせっかく行ったのにということもあるので、この評価でそこに結びつく工夫、留意点そういった部分が記載されると、効果があったのでまた行ったり、ほかの事業でも行ってもらったりといったことに結び付きそうな気がします。事務局としては記載等何か工夫の余地はあるか。
事務局	そういった細かな実績の報告の仕方、ちょっとした工夫などを実績として回答できるように、当課ではもちろん各課に照会するときも、そのような細かな点が聞き出せるよう考えたいと思う。
委員	例えば評価の際でもよいのですが、ちょっとしたチェックリストを作り、アンケートや感想を聞く用紙を作る際、性別欄の工夫をしたか、イベントでは性別関係なく使えるトイレのある施設で実施したか、など提案できることを共通して行えるものがあると思うので、チラシの中での文言や表現についてガイドラインがあると思うので、ガイドラインはチェックしたかなど、そういった全体を通じてチェックできるような一覧を渡したり、事前に準備したりすると聞きやすいのではないかなと思う。
委員長	共通のマニュアルのようなものがあるとよさそう。そういったものはあるのか。
事務局	委員にご提案いただいたチェックリストなのですが、近いものとしてセルフチェックを年2回行っておりそれが近いと思う、委員がおっしゃる細かい部分については今後の参考にさせていただく。
委員	先ほどいろいろな意見を聞いてデュオよこすかにアクセスできる人はできるが、そもそも知らない人、接点がない人にどのようにという点。 先ほどあったハンドマッサージをする中で少し性の多様性について仕掛けをしてみたら、いろいろな声が出てきたという点を考えると、すでに興味がある人が集まっているところに啓発するのは大事で数字も取れると思うが、まったく接点がないところにどのように今審議会でも議論しているところエッセンスを持っていくところができるとすぐに数字は伸びないかもしれないが、少しずつ浸透していくと思う。例えば今日ここに用意していただいたチラシは審議会に関係するものだけですね。しかしここには環境や水のこと

	とか全然入っていない。例えばこれがよく聞くものでは講座でも歴史に関するものは高齢な方ですぐ満席になる。そのような時少しでも条例改正されたがご存じですかなど、例えばチラシでもよいし、声がけでも、アンケートとる中に一つだけでも簡単に答えられる質問を混ぜ込んでもらおう。少しでも知っていただく、しかし負担にならないくらいの何かができると思うので、チラシをどこに撒きましたとあるが、関係ないところでもアプローチしてみたとか、そのようなことを行ってもよいのではないと思う。
委員長	確かに施設などは来た人次第ですが、そうでない人をどのように発掘していくかが実はすごく大事になってくる、そういったところへのアプローチなど、今手法についてご意見いただいたわけですが、皆さんのご経験でこのような声があるとかいかがですか。
委員	よく市民大学へ行くのですが、そういったところの関係のない歴史の講座に小さなアンケートというのはとても良いと思う。40 番に男女のジェンダーバイアスのことが書かれているが、知っている人は知っている。気を付けている人は気を付けているが、しかし実生活で見ると、男のくせに、女のくせにという人がたくさんおり少し心痛む思いするときもある。そういったことで少しずつでも市民の皆さんに広がっていくとよいと思いながらご意見伺っておりました。
委員長	そういった経験を感じる方はたくさんいらっしゃるのではないと思う。行政側として何か考えられること、方向性のようなものを示せばと思いますがいかがか。
事務局	こちらはターゲットを示してより来てほしい方や関係あるところにアプローチしがちで、実際ターゲットを決めて、そこに向けピンポイントに効果的・効率的に行う方向なのは事実です。実際例えばジェンダー、多様な性は分野が広いので、いろいろなものをこちらから発信することにより何かに引っかかるかもしれないので、いろいろな分野をまんべんなく市民の皆さんに周知啓発することにより、何かに引っかかり、ジェンダーってなんだっけ？のような感じでほかの分野にも関心を持ってもらえる、広がるのもよいし、委員のおっしゃった全く関係ない分野に入っていくというのも一つの考え方として参考にさせていただく。
事務局	ジェンダーと多様な性をどのように広めていくか我々職員も非常に頭を悩ませている。世間でも皆さんがわかっていない部分が結構あります。今いろいろ話していますが横須賀市役所でピンクシャツデー運動という取り組みを行っている、これはいじめをなくするという取り組みで、横須賀市内 400 くらいの事業所がいじめをやめようとしていて、その事業所に対してコンタクトができる状態にある。これから考えているのはそれだけでなく、多様な性に関してもネットワークができていますので、その中で少しずつ行っていこうとしています。ただ職員にも限界があるので現状そういった方たちのも、今度いじめだけでなく横須賀市の人権などそういったものも含めてご理解いただこうと思っている。今おっしゃったこともそうだが、ほかにもいろいろなツールを使いながら行い続けていかなければならず、すぐに手のひら返しのように変わることはないので、徐々に行っていきたいと思う。今まで点だった部分を線や面につながる形でこれからも行っていきたいと思う。先ほどの民生委員さんのお話は本当にありがたい。そういった地域単位のところから行っていくと徐々に広がっていきますし、民生委員さんで役員の方が集まるようなところでも少しお話をさせていただき、草の根運動のようなものは絶対必要だと思うので、委員の皆さんの中でそういったものがあったら是非ご紹介いただき、そこでお話しさせていただければと思うので、アイデアでも構わないと思う。

委員長	そもそも受け入れる、理解しているという世代の差もありますし、実は性別そのものの中にも差があるような気がするし、当然立場による違いもある中、それぞれの立場やそれぞれの世代に対してどのような対応するのがベストなのかで対応が少し違うと思う。そのあたりの条件整理をしっかり最初に行い町内会関係の80代などにどのように伝えるか、そもそも現実的にそれを意識している10代、20代の女性皆さんとでは全然対応が違うと思う。そのあたりしっかり整理できていて、都度そういう世代に対し何かを行うときには、これを意識しましょうみたいなものがあると、さらに広がりやすいかもしれません。先ほどのマニュアルではないが心がけセルフチェックという話があったが、そういった中に世代によって投げかけ方のヒントがあると取り組みやすくなると思う。
事務局	なかなか高齢者の方に今まで生きてきた人生と違う話をして、なかなか受け入れられることが少ないのではないかなと思う。これから我々がターゲットにしているのは若者に対してで、今年も高校で2校ぐらいのところへ行き高校生たちといろいろな話をして、これからの世の中を変えていくのは、すぐ変わるわけではない何年かかかると思うが、その時の種として今の高校生が大きくなった時わかるような形で、そのような形で考えてもいるのでなるべく多くの人にそのような話をしていきたいと思っている。
委員	ピンクシャツデーを立ち上げたとき指導をして子どもたちのピンクシャツデーの浸透がすごく早く、いじめをしないということで。ピンクシャツもそのうち街で見かけるようになりいじめ防止という風にすぐに啓発ができていたと思う。男女平等に関しても何かカラーリボンのようなそういったものを作ると、市民にも浸透しやすいのではないかなと思う。文京区の例でカラーリボンの男女平等フェアを毎年行っている。同じようリボンを勝手に作るのは問題だと思うが、近いようなものを横須賀市で統一のものがあれば浸透しやすいのではないかなと思う。
委員長	文京区は男女共同参画センターという形で先進的にいろいろな取り組みを行っているが、今センターへ行くと熱心に活動していた方々がそのままお年寄りになってすごくたくさんいて、同じリボンで行ってもいいのではないかな、そこから全国運動になっても面白いと思う。
委員	ピンクシャツデー運動はいじめ撲滅とテーマがわかりやすい。賛同も非常に早く広がっていったというのがある。例えばジェンダー平等と多様な性の尊重というのはわかりにくくて、当事者意識が起こりにくいというのがある。どう特徴を出していくとピンクシャツデーのように広げていけるかという部分を絞ったほうが良いのではと思う。もう一つ商工会議所などもそうですが、例えば国からアンケートの依頼が来ると、例えばうちで5社分の情報を集めてくださいとくるのですが、ピンクシャツデー行っているところは従業員が多いので、例えば先ほどの話で20代の従業員3名の方にこのアンケート答えてくださいのような、ピンクシャツデー行っているところは理解度という部分ではかなり意識が上がっているなのでそのような形で、例えばこういう方にアンケートをお願いしますというのを、さらにそれが2次元コードになっていて気軽に答えてくれるというツールがあると、情報としてはかなり集められるのではないかなと思う。根本的にはもう10年以上まえやはり男女共同に関するアンケート調査を商工会議所の会員向けに行ったことがある。しっかりとした調査はもう一度行うべきと思うが、時代もだいぶ変わってきているので、気軽にそのような意見を集めるのであればテーマを決めて、半強制的にお願いをして、二次元コードとか答えやすい形を作るのが良いのではないかな。
委員	今の話の流れをうかがって、基本的に依頼をはじめご提案はすべて賛成だが、もう1点別

	のアプローチとして、大学での教育もそうですが啓発などは、関心のない学生にいかに関心を持ってもらうかという工夫がハードルで、皆さんご承知ですがハードルの高い話です。それだけでなくとも社会はどんどん自分だけの世界に閉じこもっていきけるような環境になってきている。なので啓発を行うとしてそれを効果的に行っていくのはますます難しい時代になっているという印象。ジェンダー論の中でも個人の内面や意識の変容などは昔も今も言われますが、そこよりも構造的な部分にアプローチしようのような、そういった発想も強くある。つまり私たちの社会の仕組みのレベルを変えていく、生きている環境そのものを少しずつ変えていくことにより自然とジェンダー平等の感覚を身につけていくことができるような社会の仕組みを徐々に作っていく。職場であれば男女同数で働いているような環境やそういったものを徐々に整備していく。そういったことを通じてのアプローチも必要である。そうでないと意識だけのアプローチは費用対効果的な形ではないが、かなり大変なのではないかと思う。両論だがそういったところもにらみながら行っていくところを、行政的なアプローチとして何か考えていただければよいのではないかと思う。具体的にどうこうというのは難しいが。
委員長	大事なお指摘だと思う。今の話に関連してつなげていくと、先ほど若い人たちにこれからどんどん啓発していくという話があったが、そこを含めていくと私も大学でそうなのだが、やはり私たちがそれを知っていないと、しっかり引き継いでいこうとか、あるいは私たちが理解して人員をそろえていこうという話もあるから、意外に私たち 40～60 代が職場や社会を形成してリードをとっていく人たちがしっかりわかっていないと、そのあたり間違えてしまうとうまくいかないことがたくさんありそうなので、もう 60 代はいいとなってしまうと、無責任になってしまう部分もあるので、ゆるぎなくいろいろな世代に広げていきながら、私たちがピンクのシャツを着てリボンをつけるくらいの普及をしていくことが大切ですし、先生がつけているのならといったリード役も大学の先生がいるとそう思いますが、職場でも社会の中で広げていくという意味では、多様性に対応していくという世代をたくさん増やしていくことが大事だと感じる。 この 1 時間半話をしている中で、委員の皆さんが、ここはすごくいろいろな立場や世代の皆さんがいらっしゃる中で、すごく的確に事務局からの問いかけにたくさんのご意見をいただいていると思う。他の審議会では形だけの会議で終わることも多いが、この審議会は意見の発見が多く、たくさんやり取りができることがとても魅力的に思う。そのようなことも含めると、この事業報告に対して最後に意見を言うのもよいのだが、次年度行方際に悩ましい部分など、委員のそれぞれの立場や世代がまじりあって、提案のヒントになることを聞き出すような機会にしてもよいと思う。それによりそのような形の図式があってもよいと思う。以前行っていたような気がするが、実績報告は行政側が自分たちで行った、判定評価したという形で終わっているが、専門家の立場で全体を見たときに、専門委員でよいが具体的に指摘する、あるいは今日この審議会に出てきた、委員を区別するのではなく議事録の箇条書きで大事な部分は後ろに専門委員の評価、あるいは審議会での意見のような形で指摘に対してこのように取り組んでいくといったことを記載すれば、事業報告が次年度以降の専門家のお墨付きというかバックアップも取れるので、市民に対しても専門家が評価しているという意味合いが大きくなっていくと思う。 専門委員の定数の話が合ったが、そういった方がいる形でもよいのではないかと思う。
委員	今の委員長のお話で少し思い出したのだが、新しい事業なのか、既存の事業なのかチェックしていたと思う。それによっても評価は変わってくると思う、新規事業なのか明確に分かるようにしておいたほうが良いと思う。
委員長	今年度から始めた新事業に新マークが書いてあると、その項目に着目してどうなったの

	か関心を持ってもらう、そのような効果もあったと思う。以前はそのようなことを行っていた。以前行っていたものでもよい部分は、継承していただきたい。
事務局	昨年度最終評価の際、次につながるシートを作ったので、それに近い形でいただいた意見をまとめて次回提示したいと思う。何か追加でご意見ございましたらメールで受け付けたいと思う。
委員長	良い意見、声を持った委員が集まっているので、意見や知恵を取組みを進める為に生かしていただけたらと思う。 全体で意見や質問がないようなので事務局より連絡事項をお願いします。
事務局	～連絡事項～
委員長	それでは令和6年度第2回審議会を終了する。
閉 会	